

国語

平均正答数は、全国平均と比べてやや低く、県平均とはほぼ同等の結果でした。

「話すこと・聞くこと」の力をみる問題は、資料を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫する力に課題があると言えます。

「書くこと」の力をみる問題は、目的や意図に応じて分類・関連付けて伝えたいことを明確にする力に課題があると言えます。

「読むこと」の力をみる問題の正答率は、県平均よりやや高い結果でした。物語の人物像を具体的に想像できるかをみる問題では、比較的に正答率が高い結果となりました。

「言葉の特徴や使い方」の力をみる問題は、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力に課題が見られました。

算数

平均正答数は全国平均、県平均ともに比べてやや低い結果でした。「数と計算」の問題の正答率が最も高く、次いで「図形」、「データの活用」の問題と続きました。県・全国と同じ傾向で、「変化と関係」の問題が最も低い正答率となりました。

「数と計算」では、数量の関係を口を用いた式に表す問題の正答率が約 90%という高い結果となりました。

「図形」では、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題に課題が見られました。

「変化と関係」では、道のりが等しい場合の速さについて時間を基に判断してその理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られました。

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査

小牧市の分析まとめと
対策について【小学校】

令和 6 年 1 0 月

小牧市教育委員会

教育長 中川 宣芳

本年度の分析にあたって

4 月 1 8 日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、教科によるばらつきはありますが、県平均とほぼ同等の結果となりました。

この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

国語

○ 「話すこと・聞くこと」の指導を充実させます。聞き手の興味・関心や情報量を考えたり目的や意図に応じて資料の内容や順番を検討したり、実際に交流したりするなかで表現を工夫するよさが感じられるよう、指導を工夫していきます。

○ 「書くこと」について、情報を優先順位や時系列に合わせて並べたり、賛成・反対の両方の立場からまとめたり、他の人の整理の仕方を参考にしたりして伝えたいことを明確にすることができるよう指導をしていきます。

全般

○ 子ども同士の関わり合いを大切に「学び合う学び」の授業に継続して取り組み、安心して学びに向かうことができる人間関係を構築するとともに、学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる授業改善を図ります。

○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指します。さらに、子どもたちが学習した内容や生活経験、興味・関心のあることの中から自分で課題を見つけ、必要な情報を集めて解決し、その過程を振り返りながら新たな課題に向かう探究的な活動を推進していきます。

○ 一人一台タブレット端末を効果的に活用し、より多くの考えや情報に触れる中で考えを広げたり深めたりするとともに、個々の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を進めていきます。

算数

○ 「図形」の指導を充実させます。観察や構成などの活動を通して図形についての性質の理解を深めるとともに、図形を構成する要素に着目して課題解決に必要な情報を見だし活用することができるよう、指導を工夫します。

○ 「変化と関係」について、異種の二つの量の割合として捉えられる数量を比較する際に、他方の量の大小で比べたり、単位当たりの量を求めて比べたりするなど、場面に応じて処理の仕方を考えることができるよう指導をしていきます。

質問紙調査から

毎日同じくらいの時刻に寝ているか 肯定的 81. 7%

毎日同じくらいの時刻に起きているか 肯定的 90. 7%

朝食を毎日食べているか 肯定的 91. 4%

全国平均と概ね同じ結果となりました。家庭での全面的な支えがあり、基本的な生活習慣が身に付いていることが分かります。

自分にはよいところがあると思うか 肯定的 83. 8%

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか 肯定的 89. 5%

いじめはどんな理由があってもいけないと思うか 肯定的 96. 4%

教師が個に寄り添い、それぞれのよさを認めて積極的に評価することで、その姿勢が児童にも伝わり、自己肯定感の高まりにつながります。また、学年・学級が一人一人をかけがえのない大切な存在として認め合う集団となることが、いじめ防止に大きく貢献すると考えます。

学校に行くのは楽しいと思うか 肯定的 87. 2%

友達関係に満足しているか 肯定的 91. 5%

人が困っているときは進んで助けているか 肯定的 93. 0%

全国平均と概ね同じ値でした。子ども同士で支え合う良好な関係が築かれていることが、楽しく安心して学校に通うことにつながっていることが分かります。

国語・算数・英語の勉強が好きか 肯定的 59. 7% (国)・79. 9% (算)・71. 1% (英)

国語・算数の授業の内容はよく分かるか 肯定的 81. 5% (国)・80. 3% (算)・75. 2% (英)

「好き」の回答の値が、「よく分かる」と比べると低い値となっています。分かりやすいと同時に、より子どもたちの興味・関心を喚起し、各教科の楽しさ・おもしろさが伝わり、自ら学ぶ態度の育成につながるよう、魅力ある教材開発や授業づくりに力を注ぎます。

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか 肯定的 78. 3%

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができているか 肯定的 80. 4%

これからの変化の激しい時代を生き抜くため、自ら学び方を工夫・調整したり、学んだことを実生活に生かしたりする力が求められます。総合的な学習の時間を中心に、児童自身が見いだした課題を深く追究する学習活動を充実させていきます。

5 年生までの授業で、ＩＣＴ機器をどの程度使用したか。 ほぼ毎日 46. 1% 週 3 回以上 32. 3%

学習の中でのＩＣＴ活用についてどれくらい当てはまるか
・分からないことがあった時すぐに調べる 肯定的 93. 7%
・友達と考えを共有したり比べたりする 肯定的 90. 0%

ほぼ毎日の使用が、全国や県平均と比べて高い値であり、授業において日常的に使用され、考えの共有や学びの蓄積に不可欠な道具になっています。児童自身もＩＣＴ機器のよさを実感し、自分の目的に合わせて効果的に活用する能力や態度が向上していることがうかがえます。